

しょうけい館年報

令和元年度（第14号）

口絵	
ごあいさつ	1
◆施設概要	2
◆事業内容	2
◆フロア構成	3
◆令和元年度主要事業	4
◆各事業	
I 展示事業	6
1 常設展示	6
（1）常設展示	6
（2）展示資料の入れ替え	8
2 企画展等の開催	8
（1）企画展の開催	8
（2）ミニ展示	9
（3）証言映像上映会の開催	9
3 地方展の開催	10
しょうけい館-戦傷病者史料館-福島展-	10
4 来館者対応	10
（1）「展示資料一覧」等の配布	10
（2）学芸員等の展示解説	10
（3）音声ガイドの貸出	10
（4）「企画展」のパンフレット等の配布	11
（5）小・中学生用展示解説書の配布	11
（6）レファレンス・サービス	11
5 実物資料等の収集と保存	12
（1）実物資料等の収集状況	12
（2）実物資料等の保存・管理	13
6 常設展示室等の管理	13
（1）温湿度の適正な管理	13
II 図書映像資料等閲覧事業	14
1 図書閲覧室	14
（1）図書文献の閲覧	14
（2）図書文献の収集状況	14
（3）図書文献の収蔵状況	15
（4）特設コーナーの設置	15
（5）レファレンス・サービス	16
2 証言映像シアター	16
（1）証言映像の制作等	16
（2）証言映像の上映	17
（3）証言映像DVDの貸出	17
III 関連情報提供事業	18
1 情報検索コーナー	18
（1）実物資料情報の提供	18
（2）戦傷病者の記録情報の提供	19
（3）証言映像情報の提供	19
（4）図書文献資料情報の提供	20
2 館ホームページ	20
3 館内情報システムの運用管理	21
（1）システム運用管理	21
（2）データベース構築・運用管理	21
（3）ホームページ運用管理	21
IV 普及広報等事業	22
1 広報活動	22
（1）ホームページによる最新情報の提供	22
（2）企画展のポスター等の配布	23
（3）館年報の配布	24
（4）関係団体「機関紙」等への記事掲載	24
（5）WEB広報	24
（6）こども霞が関見学デーへの参加	24
（7）関係機関等との連携	25
（8）貸出キットの貸出	25
2 新聞報道等	26
V 戦中・戦後の労苦を伝える戦後世代の語り部育成事業	27
VI 戦中・戦後の労苦を伝える戦後世代の語り部活動事業	29
《参考資料》	
展示資料一覧	30
証言映像制作状況	38
令和元年度に寄せられた感想等	44
令和元年度資料提供者御芳名	47
令和元年度来館校御芳名	48
令和元年度来館者数	50
普及広報関連資料	51
利用案内	53



2階 常設展示



1階 常設展示



浦和ルーテル学院高等学校



神田女学園中学校



東京都立国際高等学校



学習院大学



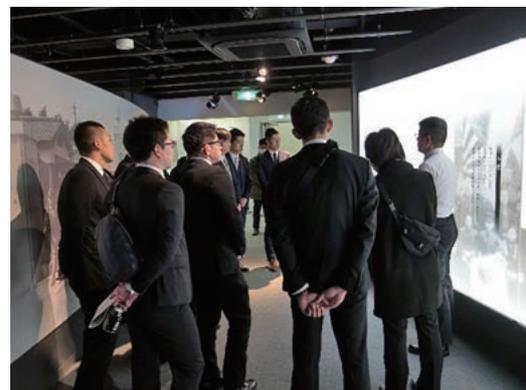
読売理工医療福祉専門学校



神奈川県川崎市立富士見中学校



神奈川県相模原市立大野南学校



陸上自衛隊衛生学校



栃木県那須烏山市遺族会



三重県桑名市立明正中学校



千葉県民主医療機関連合会



首都医校作業療法学科



千代田区平和使節団



千葉明德短期大学



品川区立芳水小学校



上智大学



館入口

ごあいさつ



しょうけい館（戦傷病者史料館）は、厚生労働省が戦傷病者に対する援護施策の一環として、戦傷病者とその妻やご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦や当時の想い等を後世代の人々に末永く承継していくために平成18年3月に設置した国の施設です。

令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2月28日～年度末まで臨時休館となりました。従いまして、夏と春の2回開催予定の企画展のうち、春の企画展は開催中止となりました。臨時休館前のミニ展示や証言映像上映会などは、計画通り開催でき、福島県では地方展を開催することができました。

これら企画展や上映会等に多くの方々にご来館いただき、戦傷病者やそのご家族が体験した労苦をご理解いただく機会を提供できたと思っております。

そして、「戦中・戦後の労苦を伝える戦後世代の語り部活動事業」では、10月より1期生の語り部活動を開始し、団体見学者向けに2月までに20団体約700名の方を対象に語り部講話を実施致しました。

また中学校、高等学校の平和学習等でのご利用のほか、スタンプラリーの参加等を通じて若年層の来館が多くみられました。今後も後世代への継承を目指し活用促進を進めていく所存です。

戦傷病者等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦にかかる資料、情報の多くが散逸し、人々の記憶からも薄れてきている今日にあって、これらの資料、情報を収集、保存、展示し、後世代に伝えていこうとする当館の意義はますます大きくなっていくものと確信いたしております。

関係各位には、これまでのご支援ご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後とも、なお一層のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ここに令和元年度において当館が実施した事業をまとめましたので、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

令和2年11月

しょうけい館

館長 奥野 義章

◆施設概要

設立趣旨

しょうけい館は、厚生労働省が戦傷病者の援護施策の一環として、戦傷病者とその妻やご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての資料及び情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として平成18年3月に設置した国立の施設である。

館名

戦傷病者とそのご家族等の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から「承継」と名付け、子供から大人まで多くの人々に親しんでもらえるよう「しょうけい」の平仮名表記にした。

なお、館の性格を明らかにするものとして「戦傷病者史料館」という名称を附記している。

施設の概要

- (1) 住 所 東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア 九段下
- (2) 展示面積 698㎡（1階338㎡ 2階360㎡）

運営

厚生労働省の委託を受けて、株式会社ムラヤマがその運営に当たっている。

◆事業内容

展示事業

戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後の労苦を伝える資料を収集、保存し、これを展示する。

図書映像資料等閲覧事業

戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後の労苦に関する体験記・文献・独自資料及び映像資料を収集し、これを閲覧に供する。

関連情報提供事業

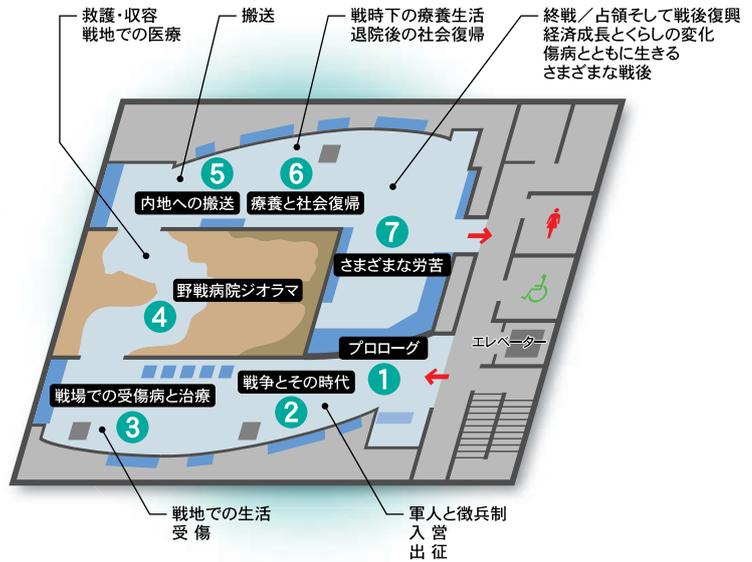
戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後の労苦にかかる当館が所蔵している図書及び資料の内容についての情報を提供する。

また、内外の類似施設等の概要情報及び文献等の所在情報を提供する。

◆フロア構成

2F

- ① プロローグ
- ② 戦争とその時代
- ③ 戦場での受傷病と治療
- ④ 野戦病院ジオラマ
- ⑤ 内地への搬送
- ⑥ 療養と社会復帰
- ⑦ ささまざまな労苦



1F



◆令和元年度主要事業

- 令和元年 5月 8日～7月15日 第22回 ミニ展示
傷痍軍人会とは～県傷の活動を振り返る～
(北海道・東北地方編)
- 5月 8日～7月15日
定期上映会「戦傷病者の証言」
～収録地域別 ①北海道・東北地方編～
- 7月13日～9月 1日
「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を開催
(3館連携事業として実施)
- 7月17日～9月 8日
夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」を開催
企画展上映会「企画展関連証言映像上映」
- 8月 7日～8月 8日
「こども霞が関見学デー」に参加 (於：厚生労働省)
- 9月 7日
戦中・戦後の労苦を伝える戦後世代の語り部育成事業
第1期生修了式 (於：TKPカンファレンスセンター)
- 9月25日～10月 1日
平和祈念展示資料館絵画展との連携
- 10月 4日～12月27日 第23回 ミニ展示
～時代の一コマ WVF～
- 10月 4日～12月27日
定期上映会「戦傷病者の証言」
～収録地域別 ②関東地方編～

10月17日～10月27日

「3館同時企画展 しょうけい館（戦傷病者史料館）一福島一」
を開催（於：とうほう・みんなの文化センター 3階展示室）

令和2年 1月 5日～3月 8日 第24回 ミニ展示
関係施設紹介展～南風原が語る沖縄戦～

1月 5日～3月 8日
定期上映会「戦傷病者の証言」
ミニ展関連～沖縄戦での受傷～

1月31日
第16回関係施設等連携会議に出席（於：昭和館）

3月10日～5月10日
春の企画展「病床からフィールドへ
～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」(中止)

◆各事業

I 展示事業

展示事業では、戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後の労苦を後世代に伝える実物資料等の展示を行うとともに、関連する資料を広く収集、保存を行っている。

また、戦傷病者とその妻やご家族等の様々な労苦を伝えるため多様な切り口による企画展や定期上映会等を開催している。

1 常設展示

(1) 常設展示

当館の常設展示は、2階の常設展示室及び1階において、戦傷病者とその妻やご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦や当時の思いなどを伝える実物資料の他、写真・ジオラマ・模型・図解・年表等を展示している。

2階の常設展示室については、ある兵士の足跡を辿る形で「プロローグ」「戦争とその時代」「戦場での受傷病と治療」「野戦病院ジオラマ」「内地への搬送」「療養と社会復帰」「様々な労苦」の各ゾーンで構成している。

特に戦後の長きにわたり、戦傷病者は妻等の支えにより重い障害を克服し、社会の様々な場面において一生懸命頑張ってきた姿や当時の思い等を更に紹介できるようにした。学習指導要領総則の大きな柱である児童・生徒の「生きる力をはぐくむ」ことに関して、これら展示はその一助となっており、学校（教育）支援施設としての側面が評価されつつある。

また、「めくり証言台」の脇には椅子を置き、メモ書きしやすいようにテーブル付の椅子を各箇所を設置するなど、来館者に対する利便性向上を図っている。さらに、展示資料付近には各所に椅子を配置し、時間をかけて展示を見て回ることが出来るような工夫をしている。

1階の常設展示については「戦傷病者と援護のあゆみ」「企画展示室」のゾーンで構成している。また、証言映像シアターでは当館が制作した証言映像を上映している。証言映像は時期によって様々なテーマを設定し、また企画展や各関連施設とも連携の上、来館者へ視聴を促している。常設展示では、これまで収集した資料のうち約200点の資料を展示している。

今年度、1階常設展示「戦傷病者と援護のあゆみ」で追加および移設工事をしたのは、以下のとおりである。

シアター内に仮設してあった日傷関連資料とWVF 関連資料を、図書閲覧室脇のシアター入り口に壁面展示として設置した。日傷関連資料は、モニターを含め目線に合わせて

右から左へとまとめた。WWF 関連資料もこれに続きまとめて、壁面展示として集約した。また、展示してある奉公杖に、新たにアクリル板をつけて壁掛け部分を補強した。

平和へのメッセージは、図書閲覧室のシアター側の裏面に設置し、戦後の労苦をわかりやすく紹介できるようにした。

援護施策年表は、シアターを60名まで収容できるように可動壁を設置し、その反対側にあたる企画展示室にパネル化し設置、企画展開催時には取り外しできるようにした。

作品に込めた労苦は、従来の取り付けタイプのを、3枚のパネルに集約し、企画展開催時には取り外しできるようにした。



戦傷病者と援護のあゆみ

《※資料展示の基本的考え方》

資料展示の基本的考え方は、①可能な限り当時使用されていた実物資料を多用することで、それらの資料を通じて当時の戦傷病者等の労苦や想いを伝える。②戦傷病者の発生原因である戦争について、戦傷病者の労苦を理解するために「時代背景」として扱うが、個別の歴史事象にかかる資料の展示は行わない。③2階常設展示室については、戦傷病者等の労苦や想いを来館者の目線で考え理解を促すように、「ある兵士の辿った足跡」を追体験できるようなサイン・イメージ写真、実物資料・履歴・証言、図・解説文、時代背景や状況の写真で展示している。④展示資料のキャプションは寄贈者の証言を盛り込むなどして戦傷病者の労苦をその言葉で伝えることとしている。

2 企画展等の開催

当館では、戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後のさまざまな労苦等を後世に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容等による企画展を開催している。

令和元年度の実施内容については次のとおりである。

(1) 企画展の開催

① 「夏の企画展」

タイトル	病院船～戦傷病者を還送した船～
開催期間	令和元年7月17日（水）～9月8日（日）
協力	日本郵船氷川丸、日本郵船歴史博物館、横浜みなと博物館
開催内容	戦時中における病院船の実態を紹介したほか、病院船に乗船した戦傷病者の思いを資料とともに紹介した。特に、戦前の日本で貨客船として建造されたものとしては現存する唯一の船であり、戦時下においては海軍に徴収され、海軍特設病院船となった「氷川丸」の航跡を取り上げた。
展示解説	当館学芸員による展示解説を実施した。（3回）



企画展示風景



学芸員による展示解説

② 「春の企画展」(中止)

タイトル	“病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～
開催予定期間	令和2年3月10日（火）～令和2年5月10日（日）
協力	日本放送協会、日本赤十字社、社会福祉法人太陽の家
資料提供	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
開催内容	身体機能の回復・強化を目指すなかで、戦傷病者がスポーツとどのように関わってきたのかを紹介する。戦時中に開催された「傷兵慰問体育大会」と、戦後1964年開催の「東京パラリンピック」の2つの大きなスポーツ大会を通して、当時の戦傷病者とスポーツの関係を

紹介する。

※「春の企画展」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策による臨時休館のため、開催は全て中止となった。

(2) ミニ展示

収蔵庫で保管している資料を活用して、1階展示スペースにてミニ展示を開催した。

第22回 「傷痍軍人会」とは～県傷の活動を振り返る～（北海道・東北地方編）

会 期 令和元年5月8日（水）～7月15日（月）

内 容 北海道や東北地方の傷痍軍人会に関する資料を展示し、活動の一端を紹介した。

展示資料 『岩傷報』、「平和の碑」綴、福祉活動研修資料綴ほか

第23回 時代の一コマ WVF

会 期 令和元年10月4日（金）～12月27日（金）

内 容 WVF（World Veterans Federation 世界歴戦者連盟）に日本傷痍軍人会が加盟した経緯や、各国の傷痍軍人会との交流を示す記念品等を展示した。

展示資料 WVF 徽章、欧米視察報告書、各国傷痍軍人団体との交流記念品ほか

第24回 「関係施設紹介展」～南風原^{はえばる}が語る沖縄戦～

会 期 令和2年1月5日（日）～2月27日（木）

協 力 沖縄県南風原町立南風原文化センター

内 容 南風原文化センターとの連携企画として、同センター所蔵の沖縄陸軍病院南風原壕出土資料（注射器、アンプル等）の展示を行った。また、当館所蔵の関連資料や南風原壕での体験を有する戦傷病者の証言映像等も合わせて紹介した。

展示資料 注射器、アンプル、軟膏、スケッチほか

(3) 証言映像上映会の開催

証言映像は、令和元年5月8日から12月27日まで「戦傷病者の証言」を収録地域別に分けて上映した。

また、令和2年1月5日から2月27日までは「ミニ展関連～沖縄戦での受傷～」として沖縄戦により戦傷病者となった方たちの証言映像を上映した。

3 地方展の開催

令和元年度は福島県（福島市）にて開催した。

3館同時企画展 しょうけい館（戦傷病者史料館）—福島展—

開催期間 令和元年10月17日（木）～10月27日（日）
 会場 とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）3階展示室
 来場者数 4,388人

福島県にお住まいの方から寄贈された資料の展示や、当館が県内で収録した戦傷病者の証言映像を上映した。今回の地方展は3館が同一会場で展示を実施した他に、公益財団法人福島県文化振興財団との共催で行い、計4施設でのスタンプラリーを実施し集客に努めた。



4 来館者対応

(1) 「展示資料一覧」等の配布

2階及び1階の常設展示室では、来館者が観覧しながら参照出来る、「展示資料一覧」を配布した。また、2階常設展示室の各ゾーンに設置している「体験記」（抜粋）を冊子にして、来館者の要望に応じて、配布した。

(2) 学芸員等の展示解説

当館では展示解説のための学芸員等を常時配置していないが、常設展示等について、来館者（団体、個人を問わず）から当館職員による説明の要望がある場合には、学芸員等が適宜対応した。

(3) 音声ガイドの貸出

音声ガイド（日本語・英語の2種類）を総合案内受付カウンターに備え付けて、来館者からの貸出要望に対応した。

(4) 「企画展」のパンフレット等の配布

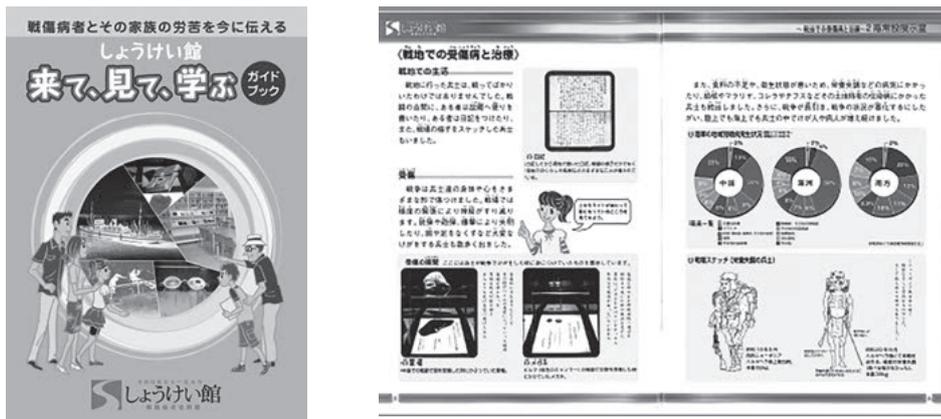
令和元年度に開催した「企画展」のパンフレットおよびチラシ、ハガキを配布した。



夏の企画展パンフレット

(5) 小・中学生用展示解説書の配布

小・中学生用展示解説書を増刷し、増加している小・中学生の来館者に配布した。



子ども解説シート

(6) レファレンス・サービス

令和元年度においても、来館された学生、研究者やマスコミ、類似施設等からの照会に対して学芸員、司書が対応した（詳細はⅡ-1-(5)《※照会・対応例》(P16)を参照)。

5 実物資料等の収集と保存

(1) 実物資料等の収集状況

令和元年度末までに収集した実物資料等は次の表の通りである。

	平成30年度まで	令和元年度	累計
寄 贈	29,332	354	29,686
購 入	1,164	26	1,190
計	30,496	380	30,876

《主な寄贈資料》

戦傷病者手帳、軍人傷痕記章、恩給診断書、症状経過書、義眼、煙草ケース、摘出弾標本箱、病院医極、第三十五師団野戦病院「衛生勤務歴」綴、軍靴、会旗（島根県傷痕軍人会邇摩郡支部）、襷（埼玉県傷妻の会）、佐賀県傷痕軍人妻の会関係資料、大野町傷痕軍人会関係資料等

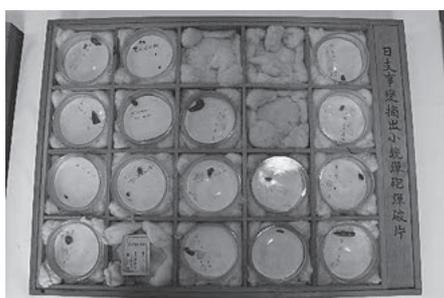
(寄贈資料例)



病院医極



煙草ケース



摘出弾標本箱



軍人傷痕記章

《主な購入資料》

支那事变白衣の思ひ出（写真帖）、重度傷痕軍人台帳、臺北衛戍病院/臺南衛戍病院 マラリヤ関連資料、開封陸軍病院看護婦旧蔵写真等

(2) 実物資料等の保存・管理

①保管倉庫借上げ

平成20年度から、所蔵する寄贈等資料については、温湿度等が適確に管理されている美術品専門の保管倉庫を借り上げて保存・管理をしてきたが、平成26年5月に、しょうけい館3階の元(財)日本傷痍軍人会の事務所を借上げて収蔵庫とし、資料の大半を館内に移した。絵画など、より微細な温湿度管理が必要とされる資料は、引き続き保管倉庫での保管とした。



3階収蔵庫

②燻蒸処理

虫害やカビの発生防止のため、平成30年12月以降に寄贈された資料、軍装品などを中心に、令和元年9月29日～10月3日に館内で燻蒸を実施した。



燻蒸処理の様子

6 常設展示室等の管理

(1) 温湿度の適正な管理

常設展示室と収蔵庫は、データロガーにより測定・記録し、その値の分析を行うなど、適正な管理に努めている。

II 図書映像資料等閲覧事業

図書映像資料等閲覧事業では、戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後の労苦に関する体験記、文献、独自資料及び映像資料等を収集、保存し、閲覧に供している。これらの事業は1階の図書閲覧室、証言映像シアター及び情報検索コーナーで実施している。

1 図書閲覧室

(1) 図書文献の閲覧

1階図書閲覧室では、戦傷病者とその妻やご家族等の労苦について来館者の理解を促すため、戦傷病者やその妻、ご家族等が記した体験記を中心に労苦に係る図書、現在の身体障害者施策や医療施策等のベースとなった当時の戦傷病者への軍陣医療の施策等を記した図書文献、戦争に関する基本的図書文献等が閲覧できる。図書文献については、体験記、軍事保護、医療・衛生史、恩給制度、部隊史、戦記、歴史などのジャンルに分類されている。これら図書文献については、館外貸出はできないが、図書検索コーナーに配置してある図書検索端末機を使用して収蔵図書文献情報を閲覧できる。

(2) 図書文献の収集状況

戦傷病者やそのご家族等が記した体験記、回想録あるいは短歌、都道府県傷痍軍人会の「年誌」、部隊史、医療・衛生史関係等文献や戦傷病者の援護関係文献等を中心にして、一般来館者と専門研究者双方のニーズに対応できる特色ある図書文献等の収集に引き続き努めてきた。

令和元年度末までに収集した図書文献は、累計で10,173冊である。その内訳については次の表のとおりである。

《図書文献の収集状況表》

単位：冊

	平成30年度まで	令和元年度	累計
寄贈	6,715	45	6,760
購入	3,335	78	3,413
計	10,050	123	10,173

令和元年度に収集した主な図書文献は次のとおりである。

《主な寄贈図書文献》

『戦争と慰問文化：慰問の実践とシステムに関する文化史研究』、『桐の華：戦時救護体験記録集』、『戦争はいけません：元従軍看護婦戸田ノブ 99 歳の思い』、『Wounds of War』、『Paying with Their Bodies』、『患者の生成と変容』、『レイテ島捕虜新聞』、『偽名戦士』、『オリンピックの輝き』等

《主な購入図書文献》

『男爵小池正直伝』、『もうひとつの戦場：戦争のなかの精神障害者／市民』、『近代日本の戦傷病者と戦争体験』、『昭和二年支那争乱事件海軍医務衛生記録』、『第六回日本医学会軍陣医学部会誌』、『大分の救護看護史』等

(3) 図書文献の収蔵状況

収集図書は、1階図書閲覧室及び3階書庫において収蔵している。1階図書閲覧室は開架となっており、体験記、回想録、援護関係文献、医療・衛生史関係文献等を自由に閲覧できる。3階書庫及び1階ガラスケースについては閉架となっており、流通数が少なく入手困難な図書や、経年劣化の見られる図書などを中心に管理している。閉架図書については、状態にもよるが閲覧請求を受け次第提供を行なっている。

(4) 特設コーナーの設置

企画展やミニ展示および証言映像シアターでの上映会に合わせて、関連する図書等の特設コーナーを設置して閲覧に供した。また、新着図書についても特設コーナーにて随時公開している。

(5) レファレンス・サービス

令和元年度も、図書等閲覧事業の一環として、来館された学生、研究者、マスコミや類似施設等からの図書等についての照会に対応した。近年は戦傷病者のみならず、戦争体験者である父祖の戦地における足跡をたどるための照会が増えており、期待に応えきれないケースもある。これらの照会に対しては「お問い合わせ一覧」を作成し情報として蓄積して、来館者等のニーズの把握に努めるとともに、事後の図書文献等の収集に役立っている。

《※照会・対応例》

- ・「明治から大正期にかけて軍医をしていた伯祖父について調べている」には、『軍医団雑誌』の人事異動記事を紹介。
- ・「父親の戦死した第106兵站病院ローガ分院の現在地を探している」には、軍医や従軍看護婦の体験記から当該病院について記述のあるものを紹介。
- ・「昭和18年ごろに陸軍軍医学校に通っていたある人物の足取りを探している。」には、陸軍軍医学校関係の資料（写真帖、回想録、同窓会誌など）を紹介。

2 証言映像シアター

(1) 証言映像の制作等

当館が制作している証言映像は、戦傷病者とその妻やご家族等が体験した様々な労苦を後世に伝えるものとして貴重な映像資料である。また、戦後75年が経過し、記憶が風化していく中で戦傷病者等の証言を映像化して記録として保存していくことは重要である。

映像の内容については、主に戦地等での受傷病やその後の治療・療養の状況、リハビリの様子、戦後における生活、戦傷病者や支える妻等の思い、ともに乗り越えてきた労苦等、戦中・戦後の戦傷病者等の労苦や当時の思いなどを伝える映像構成となっている。また、これらの証言映像には、戦傷病者本人だけでなく、その妻や子供など家族から見た戦傷病者の労苦を語る映像も収録されている。

令和元年度においては、兵庫県で1件の戦傷病者の証言を収録。詳細については次の通りである。

収録対象者：兵庫県在住の戦傷病者1名

収録時期：令和元年11月

タイトル：「16歳で右手を失って」

(2) 証言映像の上映

証言映像は、企画展や他館連携企画の内容に合わせたプログラムや定期上映会「戦傷病者の証言」として、収録地域別のプログラムや、沖縄戦での受傷に関する上映会などを行い、証言映像シアターで毎日上映した（I-2-(3)に記載のとおり）。

なお証言映像は、情報検索コーナーの検索端末機を使用しても視聴することができる。

(3) 証言映像DVDの貸出

当館は、事業普及の一環として、団体に対してDVDの無料貸出を行っている。館内掲示板や企画展のチラシ、当館ホームページなどにより積極的に告知に努めた。今後も、DVDの無料貸出について周知を推進していくこととする。

なお、これまでの貸出状況から、中学校・高校では修学旅行等の事前学習や平和学習で、大学では近現代史の課外授業や博物館実習の一環で、企業では平和活動の一環として、老人福祉施設等では同世代等による戦中戦後の追体験として、それぞれ活用されている。令和元年度のDVD貸出件数については、各種団体6件（11本）であり、内訳は学校2件（6本）、日本遺族会1件（2本）その他施設3件（3本）であった。

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、戦傷病者とその妻やご家族等が体験した戦中・戦後の労苦にかかる館所蔵の実物資料や図書文献資料等の内容についての情報を提供するとともに、内外の類似施設等の概要及び文献等にかかる情報について提供することとしている。

館所蔵の実物資料、図書文献情報等にかかる情報については、1階の情報検索コーナーで提供している。また、国内の類似施設の概要情報及び館の最新情報等については館ホームページで提供している。

1 情報検索コーナー

1階情報検索コーナーでは、館所蔵の実物資料情報の他、戦傷病者の記録情報及び証言映像情報、図書文献資料情報を提供している。30年度末には検索システムの改修を行い、これまでは情報検索用端末機4台、図書検索用端末機2台であったが、資料、戦傷病者の記録情報、証言映像、図書文献などをまとめて1台で検索できる端末機を6台設置した。また、異体字・類義語検索や、あいまい検索にも対応できるようにした。



情報検索風景



検索端末画面

(1) 実物資料情報の提供

提供している情報は、「資料名」「寄贈者氏名」「戦傷病者氏名」「関係年代」「資料情報」「実物資料の写真」等である。

また、寄贈された実物資料のうち、公開していない資料について寄贈者（来館者）から保管状況等の照会があった場合には、その情報を提供している。

令和元年度末現在、情報を提供している実物資料は、8,806点^(※)である。資料情報については整理中であり、考証が済み次第データ入力を行い、随時提供していく。

(※) 平成30年度年報にて、実物資料の情報提供数を誤って記載しておりましたので、訂正させていただきます。

(2) 戦傷病者の記録情報の提供

戦傷病者個々人の記録がほとんど残されていない現状を鑑みて、当館では戦傷病者本人あるいはその家族から寄せられた戦傷病者個々人の記録をデータ化し、来館者にそれらの情報を提供していく作業を続けている。この作業については、対象となる戦傷病者自身の高齢化、あるいは既に亡くなられていることなどの困難を伴うが、将来できるだけ多くの戦傷病者個々人の記録を残していきたいと考えている。

令和元年度末現在、提供している戦傷病者の記録情報は、寄せられた情報を精査するなどして563人の戦傷病者について、「戦傷病者本人氏名（及び妻の氏名）」「生没年」「出身地」「入営年月日」「受傷年月日」「受傷病地」「受傷病部位」「元の身分」等の情報を提供している。また、データ登録されている戦傷病者に関連する寄贈資料、体験記や証言映像が当館に収蔵されている場合には、それぞれのデータにリンクしているので、併せて検索・閲覧することができる。

今後も引き続き、資料を寄贈された戦傷病者、来館された戦傷病者や解散した都道府県傷痍軍人会の関係者などから紹介された戦傷病者について、これら記録情報の収集に鋭意努めていきたいと考えている。

(3) 証言映像情報の提供

令和元年度末までに収録した196本の証言映像については、来館者が任意に検索した証言映像情報を閲覧できるようにしている。これまでは検索結果として文字情報のみが表示されていたが、改修により証言映像の画像も表示されるようになった。



証言映像検索画面

(4) 図書文献資料情報の提供

館所蔵の図書文献情報は、図書文献検索画面から検索し、閲覧することができる。異体字・類義語検索や、あいまい検索が可能となったため、利便性が向上した。



図書文献検索画面

《図書文献情報の提供》

提供している図書文献情報は、「書名」「著者名」「出版者」「出版年」「配架場所」「請求記号」（日本十進分類法に基づく記号番号で閲覧請求等の際に使用されるもの）であり、図書文献の目次や本文までは提供していない。所蔵の有無、所蔵されている場合の配架場所を確認できる情報である。令和元年度末現在、提供している図書文献の情報数は6,753冊である。

2 館ホームページ

館ホームページでは、館紹介情報、企画展等の最新情報の他、館ホームページにリンクされている類似施設等の概要情報も閲覧できる。当館としては、ホームページは日常的に館の事業紹介等を行うことができる重要な手段であることから、利用者のアクセス解析やニーズを踏まえてこれまで毎年度改善等を図っている。

類似施設の概要情報については令和元年度末現在、74か所の類似施設とリンクしており、当該類似施設の概要情報を閲覧できるようになっている。情報更新の回数を増やすなど情報発信に努めた結果、令和2年3月までのホームページへのアクセス回数の累計は813,210件（平成31年3月までは771,109件）となっている。

3 館内情報システムの運用管理

(1) システム運用管理

来館者に対しては、情報検索コーナーに記載した当館所蔵の実物資料等情報について、当館にて整理・考証の済んだ情報をデータ化して提供している。提供する情報については、来館者が検索して、選択したものを閲覧する形式をとっている。

1階の情報検索コーナーに設置している検索端末機の操作は、画面の案内にしたがって画面を指で触れるだけで必要な情報が表示されるタッチパネル方式を採用していることから、特に年輩の利用者には好評を得ている。

システムの保守サポートは月1回、サーバーの運用については、基本的には自動運転を行い、毎日1回データの更新と当該データのバックアップを行っている。データの保全については万全の対策を講じている。

(2) データベース構築・運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化により、次に記載した情報についてデータベースを構築して稼働している。

- ① 館収蔵実物資料情報
- ② 館収蔵戦傷病者の記録情報
- ③ 館収蔵図書文献情報
- ④ 館制作証言映像情報

(3) ホームページ運用管理

ホームページでは、館の概要、各事業の紹介及び企画展の開催案内等を行い、常に館の広報に努めている。内容の更新については原則月2回以上の更新の他、必要に応じて随時更新を行っている。

IV 普及広報等事業

1 広報活動

(1) ホームページによる最新情報の提供

「館だより」においては、ミニ展の案内、語り部育成研修の報告、企画展および地方展の案内などの情報を随時更新し、館の紹介と最新情報の提供等に努めた。

令和元年度「館だより」

第200号	新収録証言映像（岐阜・福井）のご案内【4月】
第201号	「皇太子殿下御即位慶祝記念展示」（令和元年5月1日～12日）
第202号	1階 改修工事（シアター・常設展）完了【5月】
第203号	ミニ展示「傷痍軍人会」とは～県傷の活動を振り返る～<北海道・東北地方編>
第204号	情報検索コーナー更新のお知らせ
第205号	語り部育成事業「話法研修」実施報告（2019年5月11日）【6月】
第206号	「箱根療養所」コーナーへ資料追加【7月】
第207号	令和元年度 夏の企画展を開催いたします。
第208号	夏休み3館めぐりスタンプラリー開催のお知らせ
第209号	「語り部育成事業」報告（2019年6月・7月）【8月】
第210号	「こども霞が関見学デー」レポート
第211号	「語り部育成事業」報告（1期生修了について）【9月】
第212号	1階 リニューアル完了【10月】
第213号	「令和元年度地方展 しょうけい館（戦傷病者史料館） - 福島展 -
第214号	ミニ展示 時代の一コマ WWF
第215号	10月以降の団体見学から「次世代の語り部による講話」が始まっています。 【11月】
第216号	「語り部育成事業」報告（2019年8～10月）
第217号	HPにて図書検索機能が復活／「中高生向け展示パネル」の貸出を開始
第218号	寄贈資料紹介 短歌と思い出の軍靴【12月】
第219号	新年のご挨拶【1月】
第220号	ミニ展示 関係施設紹介展～南風原が語る沖縄戦～
第221号	次世代の語り部による講話活動の報告（令和元年10月～12月）
第222号	新収録証言映像（兵庫）のご案内【3月】

戦後70年以上が経過し、先の大戦による戦争経験と、戦傷病者としての戦後を生きてきた経験を、直接お聞きする機会はますます少なくなってきました。戦中・戦後の労苦を語り継いでいくために、しょうけい館では、令和元年10月より、「次世代の語り部」による講話活動を実施しています。

「次世代の語り部」は、当館で3年間、時代背景や戦傷病者についての研修を受けた20代から60代の戦後生まれの男女で、戦傷病者ではありません。講話は、「戦傷病者とその家族が体験した戦中・戦後の労苦」についてです。内容は、戦傷病者の証言映像を元にしており、証言者の体験を中心に、当時の社会状況等を織りまぜながら分かりやすく語ります。これまでしょうけい館では戦傷病者の労苦を伝えるため、展示、証言映像、図書を柱にしていましたが、語り部講話活動もこの柱に加わったこととなります。

10月は3団体、11月は6団体、12月は1団体が講話を聞きました。中学校から大人の団体まで、団体の年齢層は幅広く、「聞き入ってしまった」、「気持ちがかもって聞いてやすかった」、「分かりやすかった」といった感想が寄せられました。

語り部の方々は、これから多くの方々に、講話活動を通して戦傷病者の生きてこられた証を語り続けていきたいという思いで取り組んでいます。

「次世代の語り部による講話」は、団体予約で受け付けております。少人数でのお申込みも歓迎いたします。当館ホームページから、団体予約申請書がダウンロードできます。

URL：www.shokeikan.go.jp/pdf/dantaiyoyaku.pdf



館だより 第221号 2020年1月31日号

(2) 企画展のポスター等の配布

「夏の企画展」(令和元年7月～9月開催)では、開催趣旨及び企画展の内容の周知を図るため、ポスター、チラシ、ハガキを作成して、既来館者、既来館校をはじめ、友の会会員や資料寄贈者、国の関係行政機関、都道府県及び市(区)町村(援護担当部署)、博物館・歴史資料館・文書館、関連類似施設、中学校・高校・大学、図書館、大学研究機関、旅行会社修学旅行担当部署、マスコミ各社等に対し配布した。また、展示解説のパンフレット(A4版冊子)を来館者等に配布した。

(3) 館年報の配布

平成30年度年報（第13号）を令和元年11月、全国の関係機関等に配布した。

(4) 関係団体「機関紙」等への記事掲載

「広報千代田」（10回）をはじめ、多くの広報媒体に企画展および証言映像プログラムの紹介記事等の掲載を依頼した。

(5) WEB広報

前年度に引き続き、インターネットのWEB情報サイトに企画展および証言映像プログラム情報の掲載を実施した。

(6) こども霞が関見学デーへの参加

文部科学省の主催により、夏休みを利用して子供たちが各府省庁の所管行政（仕事）について理解を深めるために行われている事業に、厚生労働省を通じて戦傷病者とご家族等の労苦を知る機会を提供することを目的として参加した。

開催期間 令和元年8月7日（水）～8月8日（木）

見学者数 425人

展示内容 貸出キットを活用した館の紹介や漫画家水木しげる（武良茂）氏の人生をテーマとしたパネル展示と関連図書、海洋船舶画家上田毅八郎氏の作品と証言映像を展示した。また、義手体験コーナーや水木作品を使ったぬり絵コーナー等も設置した。



義手体験



ぬり絵体験

(7) 関係機関等との連携

① 千代田区ミュージアム連絡会との連携

東京都千代田区内に所在する30の施設によって組織される、千代田区ミュージアム連絡会に所属し情報交換、館の紹介等を行っている。

② 関係施設等連携会議

厚生労働省、総務省、昭和館、平和祈念展示資料館及び当館による「関係施設等連携会議」に出席し、3館連携についての協議を行い、次の事業を実施した。

1) 特別展示 「シベリア抑留絵画展 冬と夏を描く」

開催期間 令和元年9月25日(水)～10月1日(火)

主催 平和祈念展示資料館

協力 昭和館、しょうけい館

当館では、シベリア抑留を経験された戦傷病者の手記などの関連図書を2階特設コーナーで紹介した。

2) 夏休み3館めぐりスタンプラリー

開催期間 令和元年7月13日(土)～9月1日(日)

参加者数 9,276人

(8) 貸出キットの貸出

当館は、事業普及の一環として、団体に対して貸出キットの貸出しを行っている。

当館ホームページなどにより積極的に告知に努め、今後も貸出キットの貸出しについて周知を推進していくこととする。

令和元年度の貸出件数は、3件であった。

2 新聞報道等

館の紹介として、新聞では「東京新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「産経新聞」「西日本新聞」「福島民報」等で掲載された。

なお、新聞以外でも館の常設企画展示等がテレビや雑誌にて紹介された。

氷川丸が改装された様子を示したパネル＝千代田区で



元日本兵の回想録なども

戦時中、負傷病兵を運んだ「病院船」をテーマにした企画展が、千代田区九段南一の「しよっけい館」で開かれている。横浜市の山下ふ頭に係留中の国重要文化財「氷川丸」が、貨客船から病院船に改装された様

戦後74年



戦傷病兵運んだ「病院船」 千代田で企画展「氷川丸」改装の様子紹介

子を示したパネルなど約六十点を展示している。病院船は、戦時下でも互いに攻撃を避けるよう国際条約で定められ、白い船体に赤十字が描かれているのが特徴。だが攻撃されることも多く、旧日本軍では太平洋戦争開戦の一四四一（昭和十六）年以降で四十四隻が沈められたという。展示では、病院船の役割の解説パネルや、中国戦線などで銃弾を受けて帰還した元日本兵の回想録、抽出された砲弾の一部などを展示。氷川丸は、日本郵船歴史博物館（横浜市）に二年前に寄贈された病院船当時の写真を元に、手術室やレントゲン室の場所などを具体的に示した。

担当学芸員の永島武晴さ

ん（も）は「氷川丸がどう改装されたか、これまで不明な点が多かった。こうした展示が、戦傷病者について考えるきっかけになれば」

と話していた。入場無料、九月八日まで。原則月曜休館。問い合わせは、しよっけい館（電話03（3）23347821）へ。（梅野光春）

「東京新聞」（令和元年8月22日付）

V 戦中・戦後の労苦を伝える戦後世代の語り部育成事業

1 語り部育成事業

戦中・戦後の労苦を直接体験した方々が高齢となり、当時のことを語り継ぐことが難しい状況にある。当館では、戦傷病者とその妻やご家族等が戦中・戦後に体験した様々な労苦体験を受け継ぎ、それを次世代に伝える語り部を育成するための新規事業（以下、「語り部育成事業」という）を行っている。平成28年度の1期生に続き、平成29年度は2期生が研修を開始、平成30年度には3期生を募集して研修を開始した。研修は3年かけて基礎知識・講話演習・講話実施と段階的に実施している。

① 第1期生

3年目を迎え、講話原稿の作成と発表練習を実施した。令和元年8月3日（土）に講話審査会を行い、10名が審査に合格した。9月6日（土）にTKPカンファレンスセンターにおいて修了式を行い、修了証書を授与した。

② 第2期生

1年目に作成したミニ講話の発表、講話原稿の作成、発表練習を実施した。また、6月8日（土）に、国立市の「くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者」を招き、講話を聴講した。

③ 第3期生

証言映像の視聴、テーマ別証言映像の解説等の基礎研修を受けた。またミニ講話の作成を実施した。

④ 第2期生・第3期生合同研修

令和元年5月11日（土）に、瀬田ひろ美氏（劇団キンダーベース）を講師として招き、第2期生・第3期生が話法・朗読技術の研修を受けた。



第1期生審査会



第1期生修了式



第2期生研修



第3期生研修



話法・朗読技術の研修



くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者の講話

VI 戦中・戦後の労苦を伝える戦後世代の語り部活動事業

令和元年10月から、戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部活動事業を開始した。当館における語り部活動は、団体見学者を対象とした館内講話と派遣講話があり、館内講話は1階映像シアターで、派遣講話は申込者が指定した会場で講話を行う。10月は3団体、11月は5団体、12月は1団体、1月は9団体、2月は2団体に語り部講話を実施した。

《語り部講話の実施状況表》

	令和元年度（10月～2月）
件数	20
人数	693



千葉明德短期大学（令和元年10月25日）



遊園地通り商興会（令和元年10月26日）



杉並区立神明中学校（令和元年10月29日）



那須烏山遺族会（令和元年11月5日）

展示資料一覧

令和2年3月末現在

< 2階展示資料 >

■ プロローグ			
背景写真	仙台陸軍幼年学校生徒の行進	昭和19(1944)年3月	梅本忠男撮影/立命館大学 国際平和ミュージアム
■ 軍人と徴兵制			
展示資料	表彰状(南野万吉)・表彰状(南野壽恵)	昭和17(1942)年1月7日	南野 万吉(大阪府)
	表彰記事『朝日新聞』大阪版	昭和17(1942)年1月7日	
背景写真	1943年3月の徴兵検査	昭和18(1943)年3月1日	梅本忠男撮影/立命館大学 国際平和ミュージアム
■ 入 営			
展示資料	現役兵證書	昭和16(1941)年9月1日	重永 始(愛知県)
	第二補充兵證書	昭和14(1939)年9月14日	佐藤 正七郎(新潟県)
	入営銭別受取帳	昭和18(1943)年3月5日	下門 正一(大阪府)
	祝入営の幟(のぼり)	昭和18(1943)年頃	
	お守り	昭和16(1941)年頃	干場 繁雄(栃木県)
	*証言「残しておきたい記録」(『報告書』210頁)		
	お守り	昭和18(1943)年頃	時原 正明(広島県)
背景写真	(キャプションなし) 着物や青年団服を脱いで憧れの軍服に着替える	昭和10(1935)年12月	毎日新聞社
ガラス壁面 写真	現役兵として入営出発の時の記念写真	昭和15(1940)年12月1日	牛山 俊文(長野県)
■ 出 征			
展示資料	應召行動予定表・遺髪(爪)	昭和17(1942)年頃	土岐 きぬ子(岐阜県)
	遺言	昭和17(1942)年6月23日	
	貯金通帳(封筒のみ)	昭和17(1942)年頃	
	お守り	昭和13(1938)年頃	岩尾 吉明(大分県)
	千人針(帽子)	昭和16(1941)年～ 19(1944)年頃	田中 義文(大阪府)
	奉公袋・軍隊手牒(陸軍)	昭和13(1938)年頃	長田 明(山梨県)
	奉公袋		樋口 三郎(大阪府)
	履歴表(海軍)	昭和15(1940)年6月～ 20(1945)年10月	佐藤 勇(岡山県)
壁面 展示資料	出征時の答辞	昭和12(1937)年9月12日	森島 貞子(埼玉県)
	入隊証明書(現役兵)	昭和18(1943)年12月25日	豊田 豊(三重県)

背景写真	日中戦争 出征兵士が母と最後の別れ	昭和13(1938)年6月	毎日新聞社
	日中戦争 家族らの見送りをうけ出征(京都)	昭和13(1938)年9月	
ガラス壁面写真	渡満出発桃山駅で見送人	昭和9(1934)年	中井 弘三(三重県)
柱面写真	昭和八(一九三三)年九月二十日 大阪港より戦地へ		毎日新聞社
展示資料	略帽		加藤 房子(東京都)
	軍衣		遠藤 キクミ(福島県)
	軍袴		田中 成雄(愛知県)
	巻脚絆・飯盒・水筒		富松 實(岐阜県)
	編上靴		浅沼 徳藏(岩手県)
■ 戦地での生活			
展示資料	日記	昭和12(1937)年8月15日 ～13(1938)年5月14日	土岐 きぬ子(岐阜県)
	慰問袋		近田 満子(岐阜県)
	写真「慰問袋に喜ぶ兵士たち」	昭和12(1937)年頃	平田 ツネ(山口県)
	軍事郵便葉書(笠井正夫→三重子)	昭和13(1938)年7月2日	笠井 三重子(兵庫県)
	出征記念写真・軍事郵便 (近藤吉次朗→智恵子・健治)	昭和13(1938)年8月30日	近藤 健治(北海道)
	軍馬の給水袋・軍馬の給餌袋	昭和18(1943)年頃	南野 万吉(大阪府)
	軍事郵便葉書(南野万吉→乙松・壽恵)	昭和18(1943)年頃	
	写真「上海にて」～軍馬と兵士・上海の山田部隊野戦蹄鉄場	昭和12(1937)年10月16日	毎日新聞社
	軍事郵便葉書(未使用)		千葉 ナミ子(岩手県)
	軍事郵便葉書(岡田律雄→歌子)	昭和19(1944)年10月22日	岡田 歌子(山口県)
	ヤシの実の水筒	昭和19(1944)年頃	比屋根 和宏(沖縄県)
	飯盒(はんごう)	昭和18(1943)年～終戦頃	亀岡 房芳(愛媛県)
	軍事郵便葉書(片畑孝→敦子・禮子)	昭和20(1945)年1月	片畑 孝(和歌山県)
ガラス壁面写真	日中戦争 日本軍は1号作戦を開始。中国河南省新黄河を渡河して進撃する日本軍砲兵隊	昭和19(1944)年5月18日	毎日新聞社
めくり式証言台	「敵前で身体を停止」(『報告書』63頁)		雨宮 育朗(山梨県)
	「お前の家に牛がいたか」(『報告書』196頁)		米田 幸作(京都府)
	「救護看護婦の受傷」(『報告書』267頁)		道北 澄子(和歌山県)
	「生きる」(『報告書』284頁)		梅田 藤義(山口県)
	「隻眼となって」(『体験記録』118頁)		加藤 菊次(埼玉県)
■ 受傷			
展示資料	日章旗・千人針・南寧占領の新聞記事	昭和14(1939)年11月25日	松本 ヤスエ(大阪府)
	軍事郵便葉書(芦田又平→笠井三重子)	昭和14(1939)年5月2日	笠井 三重子(兵庫県)
	摘出弾	昭和20(1945)年6月26日 摘出	田島 一衛(埼玉県)
	受傷時の戦況図(壁面展示)	平成16(2004)年7月	
	*証言「二度の負傷」(『報告書』70頁)		

展示資料	摘出弾		中川 幹夫 (岐阜県)
	受傷時に停止した腕時計・被弾した小冊子	昭和16(1941)年5月9日	
	*証言「戦争の傷痕」 (『報告書』121頁)		
	事実証明書 (難聴)	昭和20(1945)年2月20日	坂本 吉之助 (栃木県)
	従軍証明書		
	事実証明書 (マラリア)	昭和20(1945)年8月20日	
	戦場スケッチ (小名木二郎 画)		熊坂 ヨス (福島県)
	摘出弾	昭和20(1945)年1月頃摘出	森本 竹一 (広島県)
	診断書	昭和20(1945)年2月1日	藤谷 民男 (広島県)
	*証言「妻に感謝」 (『体験記録』402頁)		
	履歴表 (海軍)	昭和17(1942)年5月1日 ~20(1945)年8月20日	安東 次雄 (大分県)
背景写真	トーチカ攻撃で負傷 戦友に助けられる兵士	昭和12(1937)年9月30日	毎日新聞社
	マリアナ沖海戦 空から猛爆を受ける戦艦武蔵	昭和19(1944)年10月	
ガラス 壁面写真	浙贛作戦の一環として浙江省東部に展開された戦闘	昭和17(1942)年5月15日	
	日中戦争 負傷した戦友を背負って徐州作戦	昭和13(1938)年6月	
シンボル 展示資料	軍帽	昭和15(1940)年4月18日 受傷	小田島 さと (新潟県)
	受傷時のメガネ	昭和20(1945)年3月21日 受傷	寺邊 作夫 (三重県)
	煙草ケース	昭和13(1938)年3月12日 受傷	根本 信枝 (広島県)
	牛革製カバン	昭和20(1945)年6月25日 受傷	村内 甚之助 (福井県)
	軍長靴	昭和17(1942)年11月8日 受傷	福居 武彦 (千葉県)
めくり式 証言台	「敵前で身体を停止」 (『報告書』63頁)		雨宮 育朗 (山梨県)
	「片足切断して」 (『報告書』225頁)		原 彌之助 (滋賀県)
	「平和の尊さ」 (『体験記録』329頁)		浅井 義信 (三重県)
	「麻酔のない神経切断」 (『報告書』272頁)		佐藤 勇 (岡山県)
	「救護看護婦の受傷」 (『報告書』267頁)		道北 澄子 (和歌山県)
■ 救護・収容			
展示資料	制服・制帽		日本赤十字看護大学
	手製止血器具	昭和20(1945)年6月~7月 頃	武部 敏克 (石川県)
	止血に用いた日章旗		細川 昇 (岡山県)
	負傷兵につけられた札	昭和13(1938)年10月16日	西尾 菖吉郎 (愛知県)
	日記	昭和12(1937)年8月15日 ~13(1938)年5月14日	土岐 きぬ子 (岐阜県)

展示資料	蒙城の戦闘で負傷した戦友を抱えて城壁を下りる 徐州会戦	昭和13(1938)年5月	独立行政法人 平和祈念事業特別基金
	竹製の寝台を応急の担架にして、負傷した兵士を後方に運ぶ。見送るのは部隊長。蒙城にて徐州会戦	昭和13(1938)年5月	
	摘出弾	昭和19(1944)年2月17日 摘出	石川 義男 (愛知県)
	*証言 石川義男『戦い終って四十年』7頁		
壁面資料	戦場スケッチ		中野 珪三 (福井県)
■ 戦地での医療			
展示資料	戦場スケッチ	平成17(2005)年8月10日	川尻 良雄 (京都府)
	従軍証明書	昭和21(1946)年6月1日	
	摘出弾	昭和18(1943)年5月8日 摘出	高岸 本明 (和歌山県)
	軍事郵便 (安達勇治→小田島安次)	昭和15(1940)年5月31日、 8月14日	小田島 さと (新潟県)
	軍事郵便 (千田部隊→小田島安次)	昭和15(1940)年8月21日	
	診断書	昭和21(1946)年1月4日	森 キミ (大阪府)
	従軍証明書	昭和21(1946)年5月10日	
	*証言 森市次「戦後五十年追悼の祈り」 (大阪府傷痍軍人会『戦後50周年記念誌』78頁)		
	回想記		後藤 隆雄 (岐阜県)
めくり式 証言台	「片足切断して」 (『報告書』225頁)		原 彌之助 (滋賀県)
	「三度の地獄」 (『報告書』313頁)		岸本 雅利 (高知県)
	「九回の切開」 (『報告書』330頁)		亀岡 房芳 (愛媛県)
	「極限状態で軍医殿が煎ってくれた玄米の味」 (『報告書』151頁)		高田 勝利 (新潟県)
	「麻酔のない神経切断」 (『報告書』272頁)		佐藤 勇 (岡山県)
	「救護看護婦の受傷」 (『報告書』267頁)		道北 澄子 (和歌山県)
■ 搬送			
写 真	治療の様子		彰古館
	手術用自動車		
	94式患者自動車		
	愛国2号機 (ドルニエ・メルクール)		
	病院列車		
模 型	病院船氷川丸 同船内の手術室・病室再現		—
	病院船氷川丸(1/300)		—
めくり式 証言台	「若き日を顧みて」 (『体験記録』310頁)		河路 英二 (滋賀県)
	「あぐらをかいた新郎」 (『体験記録』385頁)		南郷 清 (広島県)
	「一本足のガチャンコ先生」 (『報告書』39頁)		高橋 七郎 (山形県)
	「辛い日々」 (『報告書』204頁)		小川 泰介 (大阪府)
	「生きる」 (『報告書』284頁)		梅田 藤義 (山口県)

■ 戦時下の療養生活			
展示資料	恩賜の義眼	昭和14(1939)年頃～数年使用	横井 薫 (愛知県)
	恩賜の義足	昭和17(1942)年9月5日	叶 啓慈 (熊本県)
	義足 (補助器具)	昭和15(1940)年～終戦頃使用	堤 正三郎 (長野県)
	*証言「私の傷病歴」(長野県傷痍軍人会『終戦30周年記念誌』75頁)		
	恩賜の義指・義肢下賜御沙汰書	昭和18(1943)年頃	黒川 初夫 (大阪府)
	紹刺(ろざし)の財布	昭和13(1938)年頃	村上 美津江 (三重県)
	日記	昭和18(1943)年6月1日～19(1944)年3月11日	後藤 隆雄 (岐阜県)
	入院中の写真(臨時名古屋第一陸軍病院にて)	昭和18(1943)年	
	慰問文集	昭和13(1938)年	山田 安雄 (埼玉県)
	書簡(樋口三郎→正五郎)	昭和15(1940)年12月2日	樋口 三郎 (大阪府)
	恩賜の繻帯(ほうたい)	昭和17(1942)年頃	相羽 敏夫 (静岡県)
	証明書	昭和20(1945)年6月30日	矢野 進 (福岡県)
	診断書	昭和20(1945)年6月21日	
	恩給受給見込証明書	昭和18(1943)年12月29日	唐澤 勝治 (長野県)
背景写真	臨時東京第三陸軍病院発行の写真帳	昭和14(1939)年	上野 銀松 (岐阜県)
	小石川後楽園傷痍軍人錬成大会	昭和19(1944)年	藤川 勇 (広島県)
ガラス壁面写真	シナ事変	昭和12(1937)年	日本赤十字社
■ 退院後の社会復帰			
展示資料	傷痍軍人證・軍人傷痍記章(戦傷)・軍人傷痍記章授與證書	昭和16(1941)年12月1日	金田 歳春 (山口県)
	軍人傷痍記章(公傷)		塩谷 安治 (和歌山県)
	傷痍軍人証明書	昭和20(1945)年8月11日	
	軍人傷痍記章臨時授與證書	昭和20(1945)年7月8日	
	普通葉書(近藤伊蔵→坂本清一)	昭和15(1940)年7月3日	坂本 清一 (富山県)
	戦傷奉公杖授與證書	昭和18(1943)年4月26日	辻 甚之助 (滋賀県)
	*証言「障害を克服して」(『報告書』239頁)		
	作業義手(製図用)	昭和20(1945)年使用	玉記 茂 (京都府)
背景ポスター	「援護の光に輝く更生」恩賜財団軍人援護会 長野支部		立命館大学 国際平和ミュージアム
	「護れ傷兵」軍事保護院		
ガラス壁面	病院船が門司港に着いたところ。陸軍病院から患者収容の迎えのバス		秋葉 ヤエ
写真	*メヂカルフレンド社『ほづゝのあとに』168-169頁 1985年		
柱面写真	昭和二十(一九四五)年十月十八日 戦地から博多港へ		毎日新聞社
展示資料	略帽		浅沼 徳藏 (岩手県)
	白衣・白衣帯		佐藤 サク (福島県)

展示資料	赤十字章		干場 繁雄 (栃木県)
	草履		上野 美子 (福島県)
■ 終戦／占領そして戦後復興			
展示資料	普通葉書 (岐阜地方世話部→近田碩示)	昭和21(1946)年10月31日	近田 満子 (岐阜県)
	傷痍軍人恩給受給見込証明書	昭和21(1946)年12月5日	今木 善右衛門 (兵庫県)
	診断書	昭和24(1949)年3月29日	小川 静雄 (千葉県)
	歎願書	昭和26(1951)年7月13日	樋口 三郎 (大阪府)
	点字の手紙 (高村勝→志づ子)	昭和24(1949)年2月8日	高村 志づ子 (愛知県)
	*証言「二人三脚で苦難を克服したよろこび」 (『報告書』118頁)		
背景写真	傷痍軍人 大阪心斎橋で街頭募金	昭和26(1951)年5月	毎日新聞社
ガラス壁面	終戦 東京両国の焼け跡	昭和20(1945)年9月28日	
写真	食料難 買い出し列車は超満員	昭和20(1945)年10月	
めくり式 証言台	「右腕を切断して」 (『報告書』230頁)		古野 四郎 (滋賀県)
	「戦傷病者の妻として」 (『報告書』102頁)		鈴木 不二子 (静岡県)
	「二人三脚四十八年間の思い出」 (『体験記録』266頁)		草野 美代子 (大阪府)
	「戦傷病者の妻」 (『報告書』341頁)		藤田 ユリ子 (愛媛県)
	「盲目の漁師」 (『報告書』250頁)		石原 敏 (三重県)
	「隻腕の郵便集配」 (『報告書』259頁)		坂本 政雄 (和歌山県)
■ 経済成長とくらしの変化			
展示資料	義手	昭和30(1955)年	川上 アキ子 (長崎県)
	質札	昭和34(1959)年10月11日	
	市営住宅使用料領収書	昭和31(1956)年10月22日 ～33(1958)年1月14日	川上 アキ子 (長崎県)
	*証言「白衣の妻となりて」 (『報告書』427頁)		
	症状経過書	昭和33(1958)年10月27日	亀岡 房芳 (愛媛県)
	*証言「九回の切開」 (『報告書』335頁)		
	日本傷痍軍人会指定旅館の看板		田島 竹次郎 (栃木県)
	『友愛の泉』第8号 (日光市身体障害者友愛会)	昭和38(1963)年7月21日	
背景写真	質札・市営住宅使用料領収書		川上 アキ子 (長崎県)
■ 傷病とともに生きる			
展示資料	摘出弾	昭和40(1965)年頃摘出	谷口 セイ子 (和歌山県)
	上肢補助器具	昭和30(1955)年頃	
	診断書	昭和28(1953)年2月1日	笠原 フジ (新潟県)
	摘出弾	昭和28(1953)年2月20日、 56(1981)年12月2日 摘出	
	発作記録簿	昭和55(1980)年10月9日 ～56(1981)年11月8日	
	(シベリア珪肺の証言)		
			阿部 武一 (山形県)
		トロトラスト検診 通知書 (厚生省)	昭和53(1978)年11月13日

めくり式 証言台	「主人と共に生き暮らした四十二年間」 （『報告書』400頁）		柴田 ミソカ（大分県）
	「内助の苦勞」（『報告書』382頁）		中原 洋子（宮崎県）
	「運命のいたづら」（『体験記録』201頁）		永井 俊夫（長野県）
	「口がさけても云えません」（『報告書』61頁）		豊田 節子（神奈川県）
	『「お母さん」と最後の言葉を残して散って いった戦友たち』より（『体験記録』375頁）		井上 義昭（広島県）
	妻が語る夫の労苦（年表・写真）		丸山 あき子（三重県）
■ 箱根療養所			
展示資料	車椅子	昭和22(1947)年	独立行政法人 国立病院機構箱根病院
	駕籠（かご）・将棋盤・囲碁台		
	皇太子同妃両殿下御来訪記念トロフィー	昭和40(1965)年1月29日	
	回覧簿	昭和39年度	
	皇太子ご夫婦のご慰問（写真パネル）	昭和40(1965)年1月29日	
背景写真	箱根療養所前の坂を登る渡邊重男・文枝夫妻	昭和46(1971)年8月18日	渡邊 文枝（神奈川県）
	皇太子・同妃殿下が箱根療養所を視察された	昭和40(1965)年1月	独立行政法人 国立病院機構箱根病院
■ ささまざまな戦後／さまざまな労苦			
展示資料	義足	平成3(1991)年～7(1995) 年頃使用	村田 俊雄（富山県）
	『若き日の従軍日記』（村田俊雄著）	平成11(1999)年補正改訂	
	補助革靴	～平成12(2000)年頃使用	若本 末子（兵庫県）
	身体障害者手帳（神戸市）	昭和27(1952)年1月29日	
	片足踏みペダル自転車		中島 外二（石川県）
	『両足を失った記録』（渡辺謹一著）	平成13(2001)年	渡辺 謹一（静岡県）
めくり式 証言台	「蛆虫に助けられた負傷兵」（『体験記録』93頁）		栗田 喜代志（茨城県）
	「戦傷のハンディキャップを妻に助けられて」 （『報告書』97頁）		横井 幸一（静岡県）
	「桃栗三年苦悩六年」（『報告書』171頁）		二口 敬（石川県）
■ とものにりこえて			
展示資料	回想記「導かれ支えられて」	平成元(1989)年1月8日	藤谷 民男（広島県）
	拡大鏡（傷見）	昭和26(1951)年～51(1976) 年	薮 肇（北海道）
	ドライバー	昭和26(1951)年～51(1976) 年	薮 雅二（北海道）
	裁断用ナイフ	～昭和51(1976)年頃使用	
	回想記「乙女戦記」（手書き）	昭和21(1946)年7月	又吉 キク（沖縄県）
	ゲンノウ	昭和20年代(1945～1954)	伊東 守（東京都）
	棒ヤスリ	昭和20年代(1945～1954)	
	パール	昭和20年代(1945～1954)	

< 1階展示資料 > 戦傷病者と援護のあゆみ

■ 援護のはじまり			
展示資料	廃病院看板 (レプリカ)		独立行政法人 国立病院機構箱根病院
	『受恩給者の友』 (全国廃兵聯合会刊)	大正13(1924)年5月15日	財団法人日本傷痍軍人会
	傷病院看板 (レプリカ)		独立行政法人 国立病院機構箱根病院
■ 援護の充実			
展示資料	乃木式義手 (レプリカ)	明治39(1906)年	彰古館
	恩賜の義手 装飾義手革製		吉野 四郎 (滋賀県)
	装飾用義手 作業用義手		吉崎 美佐武郎 (新潟県)
	装飾用義手 装飾作業用義手		富樫 賢太郎 (東京都)
	戦傷奉公杖	昭和18(1943)年4月26日	橋角 貞子 (京都府)
	戦傷失明杖	昭和16(1941)年頃	井出 金次郎 (福島県)
	失明者用懐中時計	昭和19(1944)年6月20日	大久保 宣昭 (福島県)
	大日本傷痍軍人会々員章		相羽 敏夫 (静岡県)
	傷痍軍人手牒		山内 昇 (静岡県)
	各種優待券		宮崎 貞夫 (三重県)
■ 戦後のあゆみ			
展示資料	戦傷病者乗車券引換証		矢野 進 (福岡県)
	身体障害者手帳・戦傷病者手帳		山内 昇 (静岡県)
	銀杯・書状 (レプリカ)	平成12(2000)年	武部 敏克 (石川県)
	財団法人日本傷痍軍人会々員之章		森島 貞子 (埼玉県)
	日本傷痍軍人会功労記章	昭和48(1973)年	笠井 三重子 (兵庫県)
	『財団法人 日本WVF協会 概要』	昭和40(1965)年	財団法人日本傷痍軍人会

証言映像制作状況

令和2年3月末現在

映像タイトル	所要時間	証言者氏名	撮影年度
生きる・・・それは死ぬよりつらかった	10分02秒	伊東 朝雄	平成15年度
生と死に向かい合った2時間	9分41秒	西村 友雄	平成15年度
失明の恐怖とシベリア抑留	8分46秒	本名 善次郎	平成15年度
負けてたまるか!	9分58秒	水沼 毅四郎	平成15年度
手の代わりに腕が・・・	10分44秒	伊東 朝雄 松田 憲	平成15年度
暖かい支援にささえられて～傷痍軍人としての誇りと生きがい～	9分55秒	浅木 加壽義	平成15年度
受傷の労苦と葛藤を超えて	9分39秒	望月 栄允	平成15年度
療養所は大きな家族 ～支えあい、助けあい～	9分54秒	渡邊 重男・文枝	平成15年度
★箱根療養所	12分42秒	(箱根療養所の戦傷病者と看護師長)	平成15年度
偏見、差別、迫害	10分48秒	石神 耕太郎	平成16年度
利き腕の障害を乗り越えて	9分52秒	金泉 潤子郎	平成16年度
傷痍軍人の妻として・・・	14分58秒	加藤 房子 倉持 八千代 佐藤 みの子	平成16年度
軍旗の下で・・・身体と心の受傷	9分54秒	山田 薫	平成16年度
義足で、田んぼでも畑でも働いた	10分07秒	飯島 茂	平成16年度
馬とともに戦った戦場	10分04秒	三浦 久良	平成16年度
衛生兵の受傷	9分51秒	山崎 重蔵	平成16年度
二人三脚で六十年余り	9分34秒	長澤 福太郎	平成16年度
障害を超えたおおらかさ	9分38秒	野上 行三・みつ	平成16年度
筆舌に尽くせぬ苦しみの日々	10分08秒	田島 竹次郎	平成16年度
海軍少年電測兵15歳の受傷	10分01秒	村上 武	平成16年度
見た目は何でもないが・・・	9分45秒	大山 順市	平成16年度
飢え マラリア 受傷	9分58秒	半田 準一	平成16年度
隻眼の人生	9分58秒	丸山 正市	平成16年度
二度の撃沈、受傷、そして発病・・・	10分08秒	小板橋 孝策	平成16年度
二人で一人、傷痍軍人の妻として	10分14秒	菅 義美・澄子	平成16年度
人生を変えた一発の銃弾	9分56秒	田島 一衛	平成16年度
厳しい訓練も今となれば	9分51秒	内田 隆	平成16年度
家族までもが戦禍に	10分15秒	郷 實	平成16年度
死の瀬戸際で過ごした一年間	10分24秒	佐野 栄	平成16年度
ひめゆりの悲劇	32分51秒	北城 良子	平成17年度

映像タイトル	所要時間	証言者氏名	撮影年度
義勇隊の一員として	22分17秒	玉城 孝助	平成17年度
初年兵の沖縄戦	34分41秒	仲本 潤宏	平成17年度
母に支えられて・・・	31分05秒	又吉 キク	平成17年度
★武良茂(水木しげる)にとっての戦傷	20分45秒	武良 茂	平成17年度
支えられた歩み ～薮肇さんの証言～	15分07秒	薮 肇	平成18年度
遙かなる故郷 ～菅原光雄さんの証言～	13分58秒	菅原 光雄	平成18年度
平和の光を見つめて ～武田豊さんの証言～	14分04秒	武田 豊	平成18年度
赤レンガのぬくもり ～松田康人さんの証言～	13分17秒	松田 康人	平成18年度
父のまなざし ～高松秀次さんの思い出～	14分36秒	宮下 茂子 (父：高松秀次)	平成18年度
字を書く手を受傷して	10分55秒	上良 市雄	平成18年度
傷痍軍人の妻として	11分58秒	大神 つや子 長谷川 はつ子	平成18年度
受傷した身にまた召集が	10分07秒	黒川 初夫	平成18年度
衛生兵ゆえの感染	11分05秒	築山 英二	平成18年度
衛生兵のビルマ戦線	21分50秒	辻 新次・フミ子	平成18年度
伸びきった最前線での受傷	11分19秒	南野 万吉	平成18年度
親指が支えた人生	10分25秒	三宅 一志	平成18年度
三回の入院を乗り越えて	13分53秒	池田 克文	平成18年度
シベリア抑留、そして結核・・・それを支えた妻	16分45秒	崎野 保己・富恵	平成18年度
四肢を火傷・・・二度と操縦桿を握れなかった	14分25秒	新本 積	平成18年度
一昼夜の恐怖に耐えて	13分43秒	南郷 清	平成18年度
小学校を出て先生に	15分35秒	藤谷 民男	平成18年度
遠くなってしまった傷心の日々	13分27秒	梅田 武男	平成19年度
言葉に出せなかった母への感謝	15分05秒	北村 勝由	平成19年度
「一蓮托生」にかける想い	12分24秒	武部 敏克	平成19年度
かけがえのないはらから (同胞) とともに	15分01秒	出口 外枝	平成19年度
蟻地獄からの脱出	16分53秒	三宅 隆	平成19年度
信じあえばこそ、今	15分17秒	飯嶋 芳郎	平成19年度
戦病者として生きる	15分30秒	上本 昭夫	平成19年度
七転八起	14分23秒	碓井 二郎	平成19年度
働くために義手を	15分25秒	大日方 邦治	平成19年度
奇跡の生還、そして苦難の日々	14分24秒	唐沢 勝治	平成19年度
短歌に心を映して	14分11秒	玉記 茂	平成19年度
ともに歩みし いばらの道 -戦傷病者の妻として-	18分13秒	正垣 志ま	平成19年度
想いを絵筆に込めて	16分13秒	川尻 良雄	平成19年度

映像タイトル	所要時間	証言者氏名	撮影年度
不安と葛藤を乗り越えて	17分59秒	鳥海 利雄	平成19年度
誠(まごころ)で守られた命 -ニューギニア戦線にて-	18分24秒	内貴 直次	平成19年度
多くの人に助けられて	18分17秒	石橋 達夫	平成19年度
インパール作戦の最前線で -隊附軍医の記憶-	19分46秒	小澤 太郎	平成19年度
いつか花咲く日まで	19分28秒	石川 和介・キヨ	平成20年度
生まれ育った故郷(ふるさと)に恩返し	14分46秒	星 信之助・静江	平成20年度
負けない!これぐらいの傷	21分38秒	渡辺 庄一・チエ子	平成20年度
義足と妻に支えられて	24分14秒	遠藤 今朝三・マサ子	平成20年度
二人三脚、商売繁盛	22分28秒	佐藤 義治・トミイ	平成20年度
感謝の心、妻にしたためて	23分02秒	小田島 安一・さと	平成20年度
戦友への想い、詩文に託して	19分21秒	栗林 六蔵	平成20年度
意思あるところ道あり	19分29秒	夏井 清次	平成20年度
失意の時に届いた一通の手紙	17分19秒	吉崎 美佐武郎・セツ	平成20年度
歌声に祈りをこめて ~水谷 俊夫さんの証言~	22分55秒	水谷 俊夫	平成20年度
一発の機銃弾を体内に残したまま・・・	15分14秒	増田 順太郎	平成21年度
四十四年間 ~脊髄損傷の夫とともに生きぬいて~	24分01秒	鈴木 不二子	平成21年度
窮すれば通ず、左手でソロバンも	19分40秒	瀧 直三郎	平成21年度
何としても生きて帰る ~極寒と酷暑の地で~	19分09秒	上野 克己	平成21年度
思わぬ受傷で大きく変わった人生	18分51秒	佐藤 富雄	平成21年度
熱砂の抑留生活	20分58秒	馬場 勝彦	平成21年度
生きるにはこの道しかなかった	22分26秒	會津 留一	平成21年度
すべてめぐり合わせと思って	22分04秒	松尾 正輔	平成21年度
苦勞、我慢、言ったらきりが無い	13分50秒	瀬川 安正	平成21年度
九十四歳。おおいに語る傷痕の人生	20分00秒	村田 俊雄	平成21年度
感謝、そして人との和	19分18秒	高松 與一	平成21年度
失ったものを嘆かず、残ったものを鍛える	19分09秒	丹保 重高	平成21年度
いつも傷痕の夫を想いつづけて	13分16秒	坂本 芳子	平成21年度
人生を変えた職業訓練	16分35秒	前田 浅次	平成21年度
抑留中に右手を失って	19分15秒	一住連 政治	平成21年度
ミッドウェー海戦で負傷して	17分36秒	長沼 元	平成21年度
妻に支えられて六十余年	18分32秒	倉掛 重喜・ヤチヨ	平成21年度
二人三脚の人生 後遺症で苦しんだ半世紀	17分45秒	横溝 正十二・マヒ子	平成21年度
砲弾の破片を胸に抱えて	18分14秒	田中 鉄男・千重子	平成21年度
再起奉公 痛みと葛藤を超えて	17分25秒	後藤 隆雄	平成21年度
受傷の痛み 優しきまなざし	16分24秒	大橋 莊作・操	平成21年度
軍隊経験 その光と影	21分13秒	中川 幹夫	平成21年度

映像タイトル	所要時間	証言者氏名	撮影年度
受傷が変えた人生 ～苦悩、そして挑戦～	18分37秒	市川 吾一	平成21年度
シベリア珪肺を抱えながら	17分42秒	飯沼 喜芳・まつゑ	平成21年度
受傷の苦悩を乗り越えて	21分30秒	矢島 浩・八千代	平成21年度
支え合い とともに歩む	15分56秒	西部 喜久市・良子	平成21年度
家族の絆で支え合う	15分32秒	近田 満子	平成21年度
海軍看護兵 若き日の記憶	14分34秒	後藤 誠次	平成21年度
運命の出会いを育んで	15分47秒	竹口 玉枝	平成21年度
失明の夫を支えて	18分33秒	横田 タツエ	平成21年度
癒えない傷に耐えて	20分24秒	野角 敏幸	平成21年度
見た目にはわからないつらさ	17分57秒	城 武夫・静子	平成21年度
心の痛みと共に ～飛行班の思い～	18分49秒	田中 照美・キヨ	平成21年度
片手のハンディを乗り越えて	17分46秒	山本 光夫	平成21年度
★水木さんとともに歩んだ“ゲゲゲの女房” ～いつもそばにいてくれた～	20分24秒	武良 茂・布枝	平成21年度
シベリア珪肺～今も続く後遺症～	19分00秒	阿部 武一	平成22年度
脊椎挫傷でも松葉杖で歩けるように	18分05秒	古市 正夫	平成22年度
がむしゃらに生きて、描く	17分41秒	上田 毅八郎	平成22年度
サイパンで生き残って	16分34秒	伊藤 眞一	平成22年度
片腕で取った自動車免許	19分25秒	本田 喜一	平成22年度
努力家の夫を信じて ～失明の夫とともに～	17分49秒	高村 志づ子	平成22年度
両眼失明と臭覚・味覚障害、その上てんかんも・・・	19分42秒	上ノ坊 清・きく子	平成22年度
シベリア珪肺の苦しみ	18分12秒	中田 穂積	平成22年度
国のために生きて ～元海軍軍医中尉の記憶～	22分46秒	神津 康雄	平成23年度
本土決戦前の軍医教育～元陸軍衛生部見習士官の記憶～	20分28秒	関 亮	平成23年度
天地の恵みを知る～ニューギニアで終戦を迎えた軍医～	20分04秒	丹羽 正治	平成23年度
看護ひとすじ フィリピンで終戦を迎えた救護看護師	21分28秒	萩森 敏子	平成23年度
元海軍薬剤少尉の記憶	18分42秒	高田 豊造	平成23年度
両眼失明が切りひらいた戦後の人生	22分12秒	川人 義明	平成23年度
陸軍看護婦に志願して	20分16秒	水野 みゑ子	平成23年度
西部ニューギニア・軍医の闘い	23分48秒	三好 正之	平成23年度
人間の尊厳の回復につくした生涯	33分07秒	富樫 賢太郎	平成23年度
南方の戦火をくぐった救護看護婦	14分29秒	桜井 政子	平成23年度
救護看護婦そして妻として生きた全力の人生	21分00秒	太田 澄子	平成24年度
戦友をみとり 鎮魂に生きる	21分39秒	奥田 盛人・リエ子	平成24年度
負傷した者同士で支え合った半世紀	26分03秒	加納 文次・静華	平成24年度
練習機「赤トンボ」の特攻隊	15分59秒	嶋田 三郎助	平成24年度

映像タイトル	所要時間	証言者氏名	撮影年度
駆逐艦「雪風」で負傷して	21分49秒	水田 政雄	平成24年度
憲兵から捕虜となって ～前川周三郎さんの証言～	24分12秒	前川 周三郎	平成24年度
戦傷病者のあゆみと傷痍軍人会 徳田 保久さんの証言	30分30秒	徳田 保久	平成25年度
奪われた光をバネに	21分06秒	中里 益太郎・ハナ子	平成26年度
心の優しさが生んだ義足の苦しさ	20分18秒	入濱 義久	平成26年度
全てを奪われた少年の再起の人生	22分56秒	坂井 弘	平成26年度
受傷が拓いた人生	20分22秒	前田 灘一・日出子	平成26年度
生かされた人生への感謝	21分19秒	横田 肇	平成26年度
近衛兵の誇りを胸に	19分57秒	松下 貞義・良子	平成26年度
耐えて得た人生	19分08秒	阿部 高男	平成26年度
一日のことで人生が変わる	19分03秒	和田 利百	平成26年度
負傷したことのハンディをバネに	20分36秒	北沖 道行	平成26年度
戦傷の身で川之江町へ・・・	19分51秒	村上 一夫	平成26年度
右脚一本、海で生きた軍属	19分48秒	黒河 正桂	平成26年度
みんなのため、人のため・・・（最後の日傷会長）	30分03秒	奥野 義章	平成26年度
無いものは無い、それでもやるほかない・・・	19分20秒	佐藤 東三郎	平成26年度
それでも空へ憧れる	23分48秒	有馬 純人・イクエ	平成27年度
闘い続けた半生	24分18秒	坂口 守義	平成27年度
片脚を失くしても前へ進む	21分31秒	西ヶ野 九平	平成27年度
妻が支えた半世紀	17分41秒	野々垣 正・郁子	平成27年度
死んで花実が咲くものか	24分10秒	秋草 鶴次	平成27年度
通信兵の見た硫黄島	19分43秒	秋草 鶴次	平成27年度
人生を切り開いた知恵 ～シベリアで片腕を失う～	19分39秒	鶴田 要吉	平成27年度
受傷した手で挑んだ開拓 ～そして人のために～	21分38秒	木下 太・キクエ	平成27年度
最後まで傷痍軍人として	22分24秒	首藤 忠夫	平成27年度
生き残った苦しみ ～CT登場で認められた脳の受傷～	24分16秒	後藤 義治	平成27年度
全てを受け入れて ～肺結核の夫を支える～	17分14秒	寄村 文利・妙子	平成27年度
頭部損傷の夫を支えて	20分28秒	滝口 栄蔵・はつ	平成27年度
不自由さを胸に秘めて	18分31秒	渡辺 行雄	平成27年度
開墾・切り開いた人生 ～小学校教員から軍人の妻へ～	19分25秒	大内 貢・恒子	平成27年度
戦病の夫に代わって ～戦中・戦後の開拓人生～	20分58秒	藤本 巽・初美	平成27年度
夫の両脚となって共に歩んだ人生	23分46秒	木村 靖・房枝	平成27年度
兄嫁と結婚してつかんだ幸せ	19分29秒	志賀 正司・三四子	平成27年度
左脚の負傷に耐えて女手一つで育て上げた9人の子ども	18分55秒	城間 好	平成27年度
追い詰められた地上戦 ～戦傷の夫とともに～	21分59秒	仲程 秀雄・シゲ	平成27年度

映像タイトル	所要時間	証言者氏名	撮影年度
銃撃を受けた米軍に救われて	23分29秒	宮城 繁・清子	平成27年度
家族を崩壊させた戦争を乗り越えて	29分59秒	大城 トシ子	平成27年度
残された思いを越えて	20分19秒	宜保 直志	平成27年度
酷寒・飢え・目の痛み そして再出発	22分01秒	井出 正己・ミツヨ	平成28年度
終戦の日の受傷から・・・103歳まで生きる	20分14秒	福田 貞之・幸子	平成28年度
ただ一回の「はめことば」	23分03秒	日高 正人・笑子	平成28年度
今日あることに感謝 明日があればさらによし	23分01秒	小早川 宗・和子	平成28年度
気配りが生んだ「転ばぬ先の杖」	18分44秒	壺井 常三・カズ子	平成28年度
体験記をまとめて知った父の思い	21分44秒	吉岡 正雄・利泰	平成28年度
大きな夫を小さな体で支えて	19分00秒	乾 政治郎・知恵子	平成28年度
捕虜と隔離が打ち砕いた人生	29分45秒	立花 誠一郎	平成28年度
身に沁みだした平和	14分27秒	平尾 清	平成28年度
全てはシベリアから始まった	16分25秒	松村 広保	平成28年度
自分の傷より他人の世話～娘が繋ぐ人生～	12分19秒	今井 市次・秀子	平成28年度
見えない目、理解されない苦しみの中で	13分32秒	河野 伸市	平成28年度
国に渡した体半分	16分51秒	下西 昇	平成28年度
癒されない心 「死んだほうがまし」と思った青春	14分16秒	筒井 政利	平成28年度
誰にも言わなかった左眼失明	15分21秒	山田 壽雄	平成28年度
職業軍人を目指した父がみた現実	15分40秒	沼澤 磯吉・宏	平成28年度
家族で乗り越えた差別	13分50秒	高津 文司・優子	平成28年度
近衛兵の誇りで乗り越えた労苦	17分16秒	栗田 覚蔵・和則	平成28年度
戦場体験が生んだわだかまり	25分27秒	西田 明	平成29年度
傷痍軍人たちの戦後	46分52秒	長崎県傷痍軍人会ほか	平成29年度
終戦から始まった30年の闘い ～銃創と結核～	13分06秒	磯部 武	平成30年度
左腕一本で家族を支えた父	15分21秒	大里 晋治・ツヤ子・ 恵美子	平成30年度
16歳で右手を失って	15分16秒	奥村 豊	令和元年度

★マークの証言映像は、しょうけい館の館内のみで視聴できます。

令和元年度に寄せられた感想等

令和元年度において、来館者の方々が館アンケートに書き込まれた感想・意見等について、その一部ですが、ここにご紹介します。

【10代】

- ・初めてしょうけい館を訪れましたが、とても胸が痛みました。戦争に関する資料館をいくつか回って、どのように後世に、戦争に関する資料を伝えていけばよいのかと思い訪ねました。来てとてもよかったと思います。
- ・証言映像は色々考えさせられることがあり、改めて五体満足が、どれほど大切なのかを感じる事ができた。あまり、戦傷病者自身の体験談や感想などを聞く機会がないのでとても参考になりました。
- ・戦傷者が実際に身に付けていた物を見た経験は、テレビや映画よりも生々しく心に残り戦争によって確かにたくさんの人が傷つき、犠牲になったことを実感しました。戦争の痛みを語り部に受け継ぐことが、戦争を二度と起こさないために必要だと思います。
- ・授業で聞いたことがない言葉やその時の生活について詳しく説明して頂いたので、すごく分かり易かったしとても勉強になりました。
- ・手術のときのジオラマが特に心に残っています、とてもリアルでした。アナウンスとともに見ている、どんな思いだったのかがよく伝わりました。とても辛い気持ちになりましたが、知ることができて良かったです。
- ・歴史の教科書や資料集では死傷者といった言葉のみで片付けられてしまう。戦傷病者について知るととても良い場所であり、貴重な体験をありがとうございました。

【20代】

- ・ジオラマがとてもリアルで、当時の野戦病院の雰囲気を感じることができた。受傷の瞬間に身に着けていたものの資料の影で穴の開いてしまっている場所を写していたところがとても印象に残った。
- ・野戦病院のジオラマを見て、戦争下において怪我をした兵隊は大変だったのだなと感じた。語り部の話で足を失いながらも家族の支えがあり生きている姿に感動した。
- ・戦時下においては、まともな医療ができないとあらためて分かりました。受傷してただでさえ苦しいのに、戦後も後遺症に悩まされて生きて来られた話を聞き戦争がなければ、こんな思いをしなかったのにと強く感じ、二度と戦争をしてはいけない、起こしてはいけないと声に出して伝えていかなければと思いました。
- ・改めて、今後の生き方を考えさせられる、とても良い時間となりました。説明等聞きやすく、戦時中の状況を一緒にたどっている感じがした。

- ・戦傷病者の戦時中の体験の流れをみて、悲劇を知る事ができた。ジオラマは怖く戦争の恐ろしさも感じた。
- ・初めて、しょうけい館に来させていただき実際体験した証言映像シアターなどで見るのが良かった。また野戦病院ジオラマもリアルで昔の雰囲気があったし伝わってきた。

【30代】

- ・戦傷病者の方々がどのような思いで生活されてきたのか、深く考えることができました。良い内容を知ることができとても良かったです。
- ・人の生死に関わる部分にクローズアップされているので、自分のことのように感じました。このようなことが二度と起こらないようにするのが今生きる私たちの務めだと改めて感じました。
- ・氷川丸の事を初めて知った。案内の際に説明を受けたが、非常にリアルに説明していただいたので戦争での受傷の大変さがよく分かった。結婚して子どももいるが、自分が今、障害を持ったらどうなるのか家族に迷惑をかけるなどいろいろ考えさせられた。
- ・戦傷病者にフォーカスをあてての展示をあまり他の施設ではみられないと思ったのですごく勉強になりました。
- ・戦中のことだけでなく、ずっと続いていて、生きること、戦争についてよく考え、感じる事ができました。詳しく説明していただきありがとうございました。

【40代】

- ・今まで知ったつもりになっていた事柄を多くの展示証言 VTR によって一新していただいた気持ちです。案内して下さった方の説明が大変分かりやすく、考えさせられる時間を頂きました。
- ・戦地で負傷して激痛をのりこえ一命をとりとめてからの生活の苦難について知れば知るほど胸が苦しくなった。
- ・戦争は恐ろしい、自分がそこにいたら、どうなっているのかも考えられない。
- ・母の父と祖父が沖縄戦で戦死しました。その苦労は小さい時から聞いていたのですが、2階の展示を見てより一層戦時中の様子がわかったので、もっとこの施設をたくさんの方に見ていただきたいと思いました。

【50代】

- ・時代背景をまじえて、戦争の悲惨さ、決して起こしてならないことを改めて学ばさせていただきました。
- ・今の私達の恵まれた平和な生活は、戦争で苦勞された人々のおかげであることをあらためて感

じた。

- ・勇ましいと思うより、戦争はあってならないと実感しました。
- ・死んだ祖父も戦争でけがをしたので、生きていた時に話をきいておけばよかったと思いました。
- ・戦傷病の展示を通じて、戦争の残酷さを知った。病気や餓死者も大勢いたと聞く。勉強したい。知れば知るほど、戦争をやってはいけないと思う。
- ・今回、初めて訪れました。戦争による傷病者の視点で考えたことがなかったので、生きていなくてはならないという気持ちが強く伝わってくるのを感じました。

【60代】

- ・初めて来たのだが、とても感慨深かったです。とにかくショッキングでした。今のこの平和な時代に生まれて良かったです。
- ・先の大戦からどれほど時が流れても当時の市民の様子を知る資料を保存、公開する施設は未来永劫、後世に残して欲しい。全ての展示が意義深く、心に残りました。改めて水木しげる氏の画力の凄さに見入られました。
- ・戦傷病者の方の言葉を聞いて本当につらい日々を送ってきた事が分かり、今の平和が長く続くように戦争は二度としてはいけないと強く思いました。

【70代】

- ・これからは平和な日本になってほしいです。
- ・平和の大切さを感じます。
- ・語り部紹介の方が、分かりやすく、のめりこみそうで、貴重な体験をする事ができました。
- ・時代背景をまじえて、戦争の悲惨さ、決して起こしてならないことを改めて学ばしていただきました。忘れないで、今後も勉強したいと思いました。

【80代】

- ・絶対戦争のむなしさ、戦争の避ける社会にしなくてはと思いました。

令和元年度資料提供者御芳名

令和元年度、当館に資料並びに図書をご寄贈くださいました方のお名前をここに記して御礼といたします。

<資料提供者>

(順不同、敬称略)

寄贈者名 (個人)			
高峰 章	中岡 よしゑ	船越 壽美子	壺井 カズ子
小山 光美	木下 吉夫	近田 満子	高谷 正博
宮田 衣里子	森戸 久人	大内 恒子	富田 裕美子
前田 ツルエ	川村 哲夫	森本 禎子	板倉 サチエ
山中 稔	首藤 忠夫	高橋 和也	光嶋 瀬市郎
宮本 律子	岡崎 千代治	川島 香	高津 美成子
岩佐 美智子	久保田 伊美子		

寄贈者名 (団体)	
小倉医療センター	

<図書提供者>

(順不同、敬称略)

寄贈者名 (個人)			
福田 きく	藤木 直実	佐田尾 信作	山野井 孝有
Lee Pennington	坂井 めぐみ	岡本 耕治	荒木 映子
北岡 真幸	佐藤 次郎		

令和元年度来館校御芳名

年 月	学 校 名	年 月	学 校 名
平成31年4月	福島県須賀市立第二中学校	7月	上智大学
	神奈川県立菅高等学校		二松学舎大学
	宮城県富谷市立東向陽台中学校		東京家政大学附属女子中学校
令和元年5月	神奈川県立川崎高等学校		東京都板橋区立志村第二中学校
	読売理工医療福祉専門学校		東京都千代田区立富士見小学校
	山形県鶴岡市立鶴岡第三中学校		学習院女子大学
	青森県田舎館村立田舎館中学校		首都医校
	神田女学園中学校		神奈川県横浜市立あざみ野中学校
	立教大学		桐蔭学園中学校
	三重県三重郡菰野町立八風中学校		8月
	三重県桑名市立明正中学校	自衛隊衛生学校	
	埼玉県立上尾高等学校	青山学院大学	
	6月	文化学園大学杉並高等学校	
神奈川県相模原市立相模丘中学校		神奈川県横浜精華小学校	
千葉県成田市立公津の杜中学校		筑波大学附属駒場高校	
東京都立国際高等学校		学習院女子中等科	
神奈川県川崎市立宮崎中学校		江戸川学園中学校	
浦和ルーテル学院高等学校		埼玉県立深谷第一高等学校	
愛知県豊田市立高橋中学校		埼玉県立上尾鷹の台高等学校	
防衛医科大学校		9月	福島県白河市立白河第二中学校
神奈川県川崎市立麻生中学校			関西大学
東京都立桜修館中等教育学校			和洋女子大学
学習院大学	国士舘大学		
神奈川県川崎市立宮前平中学校	神奈川県川崎市立富士見中学校		
神奈川県川崎市立南河原中学校	世田谷福祉専門学校		
東京都千代田区立九段中等教育学校	北海道大学		
7月	東京都板橋区立赤塚第二中学校		埼玉大学
	埼玉県三芳町立藤久保中学校		埼玉県立熊谷女子高等学校
	東京都立日比谷高等学校		日本大学
	陸上自衛隊衛生学校	宮城県立宮城高等学校	

年 月	学 校 名	
1 0 月	陸上自衛隊	
	千葉明德短期大学	
	私立広尾学園中学校	
	東京都杉並区立神明中学校	
1 1 月	神奈川県相模原市立大野南中学校	
	東京都練馬区立石神井西中学校	
	埼玉県狛江市立狛江第三中学校	
	桐朋女子中学校	
	中野区立第7中学校	
	首都医校	
	二松学舎大学附属高校	
	実践学園高等学校	
	千葉県鎌ヶ谷市立第四中学校	
	南京大学	
	1 2 月	東京女子大学
		学習院大学
法政大学中学校		
二松学舎大学附属高等学校		
明星大学		
令和2年1月	神奈川県相模原市立上溝中学校	
	和洋九段女子高等学校	
	神田外語学院	
	陸上自衛隊衛生学校	
	埼玉県所沢市立上山口中学校	
	東京都東村山市立東村山第三中学校	
	淑徳大学	
	東京都町田市立南大谷中学校	
	埼玉県越谷市立東中学校	
	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	
	法政大学	
	東葛看護専門学校	
	東京都町田市立町田第一中学校	
	東京都町田市立鶴川中学校	

年 月	学 校 名
2月	法政大学附属第二中学校
	学習院女子中等科
	東京都日野市立大坂上中学校
	東京都中央区立銀座中学校
	東京都世田谷区立上祖師谷中学校
	東京都新宿区立西新宿中学校
	東京都立川市立立川第四中学校
	法政大学附属第二中学校
東京都品川区立芳水小学校	

令和元年度来館者数

年 月	来館者数 (人)	備 考
平成31年 4月	13,824	「春の企画展」(3/12)～5/6
令和元年 5月	9,413	「春の企画展」 //
6月	10,123	
7月	13,827	「夏の企画展」7/17～9/8
8月	17,147	「夏の企画展」 //
9月	8,733	「夏の企画展」 //
10月	9,161	
11月	11,332	
12月	9,623	
令和2年 1月	11,213	
2月	9,904	
3月	—	
計	124,300	

※上記の来館者数は、館が設置している「自動カウント機」により計測しているものです。

夏の企画展

病院船

（戦傷病者を還送した船）

令和元年(2019) 7.17(水) ▶ 9.8(日)

開館時間 ▶ 10時～17時30分(入館は17時まで)

会場 ▶ しょうけい館1階展示室

休館日 ▶ 毎週月曜日・8/13(8/12(月)は開館)

病院船「氷川丸」(画:上田毅八郎)

 **しょうけい館**
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers etc.

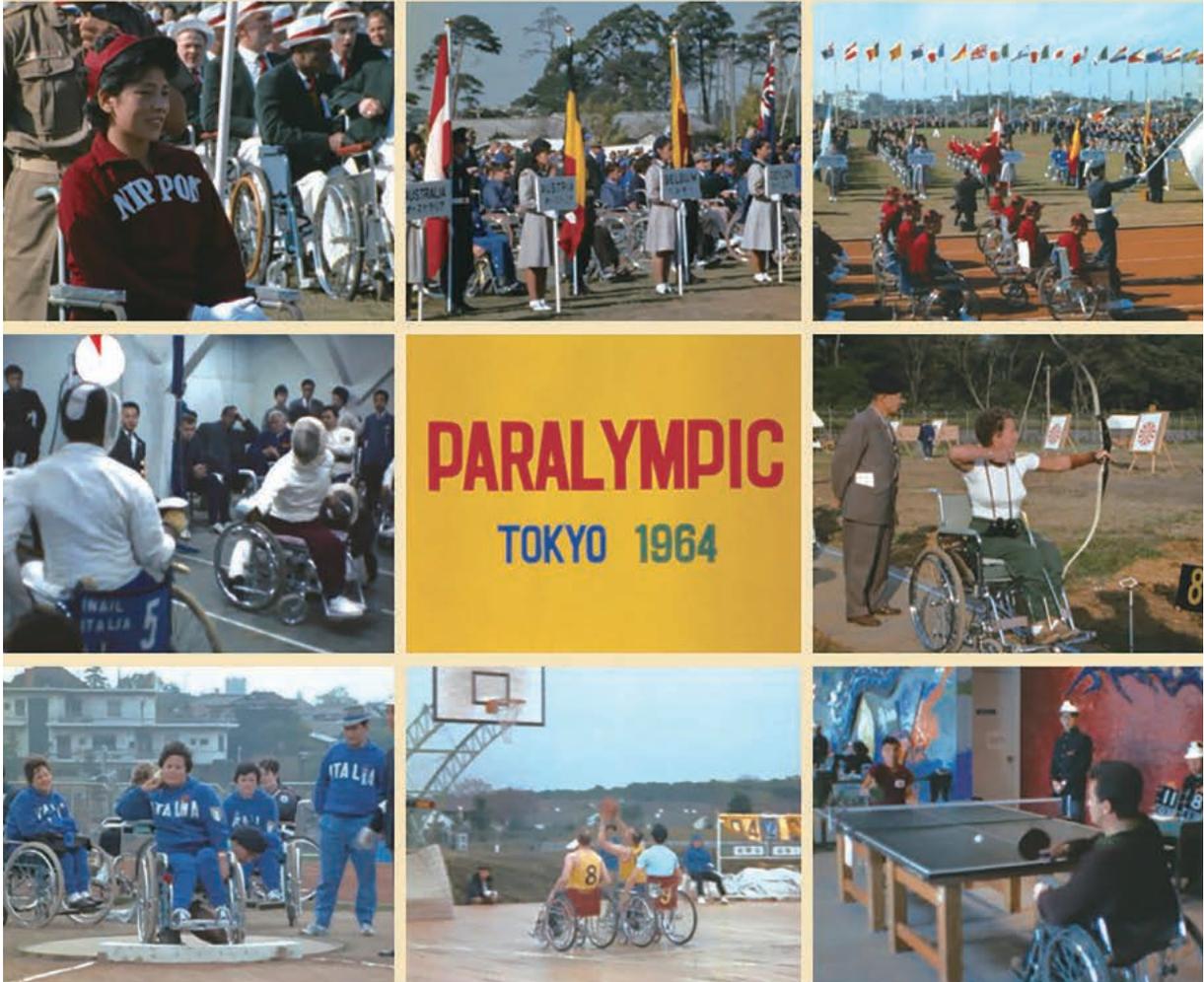
入場無料

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下
TEL:03-3234-7821 FAX:03-3234-7826
協力:日本郵船氷川丸、日本郵船歴史博物館、横浜みなと博物館

www.shokeikan.go.jp

春の企画展チラシ（開催は、臨時休館により中止）

1964年東京パラリンピック 幻のカラー記録映画上映!!



春の企画展

病床からフィールドへ

—スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡—

令和
2年
(2020) **3.10** 火 ▶ **5.10** 日



開館時間 ▶ 10時～17時30分（入館は17時まで）

会 場 ▶ しょうけい館1階展示室

休 館 日 ▶ 毎週月曜日・5/7(5/4(月)は開館)

協力: 日本放送協会、日本赤十字社、社会福祉法人太閤の家
資料提供: 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

利用案内

入館料／無料

開館時間／午前10:00～午後5:30（入館は午後5:00まで）

休館日／月曜日（祝日または振替休日の場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

音声ガイドがあります。（無料）

団体で見学される場合には、なるべく来館予定日をご連絡下さい。

車椅子、ロッカーは無料でご利用になれます。

交通のご案内

東京駅（東京メトロ丸ノ内線）→ 大手町（東京メトロ半蔵門線）→ 九段下

渋谷駅（東京メトロ半蔵門線）→ 九段下

新宿駅（都営地下鉄新宿線）→ 九段下

上野駅（東京メトロ銀座線）→ 日本橋（東京メトロ東西線）→ 九段下

※九段下駅下車、出口6から徒歩1分



都営バスをご利用の場合

「九段下」停留所から徒歩1分（高71系統：九段下～高田馬場）

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

※車いすでご来館される場合は館の入口（スロープ）をご利用ください。



しょうけい館年報 令和元年度（第14号）

令和2年11月発行

編集発行 しょうけい館 戦傷病者史料館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13

ツカキスクエア 九段下

電話 03（3234）7821

www.shokeikan.go.jp